

新規就農者の現状と課題は

公社的な仕組みも含め検討する



平田 慎一 議員

農業就業人口が減少するといふことは、食糧供給の問題にかかわるだけではなく、農村というコミュニティ、地域や集落の維持にもかかわる問題であり、抜本的な対策が求められる。

過去5年間の認定農業者と新規就農者の推移はどうか。また、その数字を見て、どのような認識を持っているか。

高齢者は多いが近年は横ばい状態

町長

5年間で22名が新規就農している。やはり高齢者の認定農業者が多いという特徴があると認識している。

年度毎の認定農業者数と新規就農者数

年度	認定農業者数	うち法人数	新規就農者数
平成26年	—	—	8名
平成27年	209人	29法人	2名
平成28年	221人	33法人	3名
平成29年	221人	31法人	5名
平成30年	223人	32法人	4名
令和元年	220人	32法人	—

新規就農者を増やすための施策は

平田議員

地方においても、新規就農者のサポートを進めることが大切であり、国と地域が足並みをそろえて対策を講ずることが必要であると思うが、本町として新規就農者を増やすための施策をどう考えているか。

方向性を見いだしていきたい

町長

後継者不足により、既存の施設などが今後活用されないことなど予想されることから、所有者との合意のもと、施設の貸し出しにより、新規就農者とマッチングさせるとか方向性を見出していく。

新規就農者を支援する公社的な仕組みはできないか

平田議員

農業の新たな技術と既存の技術を学ぶべく実践できる仕組みを構築していくことが、これから農業に参入しようという若い世代を育てることになり、担い手農家や既存の農家への波及効果も得られる。近隣市町のような単一の目的の公社ではなく、新規就農者、担い手農家へのトータルなサポートをするための包括的な体制の受け皿としての役割を持つ公社が必要であると思うがどうか。

仕組みづくりを考える

町長

本町の基幹産業は農業である。農業に従事されている方並びに新規就農者の方を支援していくことは、今後も変わりはない。今

後は公社的な仕組みも含め、本町で農業を始めたいと思うような仕組みづくりを考え、検討していく。

サツマイモ立枯・塊根腐敗症状の情報提供したか改善を求める

平田議員

近隣市町においては、かんしょ事業者だけではなく、かんしょ生産者に対しても、緊急対策にかかる補助金の事業説明会が実施されたと聞いている。なぜ本町の担い手農家や個人農家への周知しなかったのか。また、近隣市町では防災無線による説明会の案内があったが、なぜ本町ではしなかったのか。また、かんしょ事業主体の案内は何社送付したのか。



さつまいもの腐敗状況

県のさつまいも事業説明会日程表の大崎町の欄を見てみると出席生産者は一人となっている。ほかの市町は相当数の参加がある。下段に、受益農家に漏れがないよう記載され、周知方法についても、緊急を要するため、漏れがないよ

う、有線放送等活用し広く周知するように書いてある。

これは、農政全般に言えることだが、あつてはならない情報提供の不備であり、情報を得たものだけが優遇されるような情報格差があつてはならない。この件について、なぜそうなったのか、問題点をさかのぼって検証し、反省事項を把握し、改善されたい。

事業主体だけと聞いていた配慮が足りなかった

町長

この説明会については事業主体向けであつたと聞いている。ただ、個人が実際参加できているので配慮に欠けていた。防災無線での周知についても、生産者の皆さんが、こういう被害が発生しているなど認識できたと思つている。案内については事業主体に出した。

鹿児島県さつまいも事業説明会

市町村名	開催場所	生産者出席数
曾於市	1会場	15人
志布志市	3会場	104人
大崎町	1会場	1人
鹿屋市	5会場	124人
垂水市	農家に個別連絡	6戸
東串良町	1会場	8人
錦江町	1会場	40人
南大隅町	農家に個別連絡	7戸
肝付町	1会場	45人